

平素はバイバイ菌（次亜塩素酸）をお使い頂きましてありがとうございます。この度、次亜塩素酸水について経済産業省、製品評価技術基盤機構（NITE）をはじめとする各報道機関において発表がございました。

これをうけ、バイバイ菌における安全性および有効性についての当社の見解を発表致します。今後もバイバイ菌をお客様に安心してお使い頂けるように、第三者機関において、その有効性と安全性の確認を行っていきたいと思います。

1、バイバイ菌

主成分：次亜塩素酸

原料：水、塩化ナトリウム、二酸化炭素（炭酸ガス）

有効塩素濃度：500ppm 強（製造時）

液性：微酸性（pH5.8前後）

使用期限：製造後 約3ヶ月（製造日は製品に記載）

製法：無隔膜電解槽で電気分解にて生成

保存方法：直射日光の当たらない冷暗所に保存して下さい。

使用方法：用途に応じて水道水で希釀して利用して下さい。

対象物に汚れがある場合、拭取るか十分な量をお使い下さい。

2、安全性の試験

- (1) ヒト培養角膜モデルを用いる眼刺激性試験 第20038022001-0101号
- (2) ヒト培養皮膚モデルを用いる皮膚刺激性試験 第19092780001-0401号
- (3) 雌マウスを用いる急性経口毒性試験 第20000100001-0101号
- (4) 微酸性次亜塩素酸水 食品添加物規格基準試験 第19133019001-010号
試験機関：財団法人 日本食品分析センター
- (5) 塩素ガス測定 0.05ppm以下（検出測定限界値以下）※超音波噴霧器
RL-2011利用 6畳空間（EUリスク評価書の10分の1の値以下）
- (6) 総トリハロメタン（0.001mg/L）、塩素酸（0.71mg/L）、臭素酸
(0.014mg/L)と水道水の水質基準とほぼ同等となります。
※mg/L=ppm(100万分の1の単位)
※すべて10倍に希釀した検体における検査。

3、有効性について

- (1) ウイルス不活性化試験（ネココロナウイルス） 北環発2019_0440号
- (2) 室内浮遊菌の抑制試験（黄色ブドウ球菌） 北生発2017_0117号試験
機関：一般財団法人 北里環境科学センター
- (3) アレルゲン不活性化試験（スギ花粉） 第19092780001-0101号
- (4) カビ殺菌試験（クロカワカビ） 第1909278001-0201号
- (5) ウイルス不活性化試験（インフルエンザ） 第1909278001-0301号試験
機関：財団法人 日本食品分析センター

※すべて水道水で10倍に希釀した検体における検査

※ウイルス名の標ぼうは医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全
性の確保等に関する法律に抵触する恐れがある為、販売サイトでは非
公開しております。

4、報道されている超音波噴霧器に消毒薬をいれる事が推奨されていないという点
について示される消毒薬とは「次亜塩素酸ナトリウム」の事であり「次亜塩素酸水」
ではございません。バイバイ菌は水道水で10倍希釀する事により「微酸性次亜塩素
酸水」と同等な性質である事は食品分析センターにて試験済みです。